

Oth anniversary 60 周年記念特集号



大学支援と地域貢献



同窓会会長

杉 田

豐

(昭和36年・中数卒)

甲です。 記念すべき年に当たります。人で言えば還曆、 と改称し、新たな歩みを始めてから6周年という 今年は、 同窓会が 「静岡大学教育学部同窓会」 華

〔能動的学習〕の導入が求められる所以です。

を大切に着実な歩みをしてまいります。

教師の最大の責務です。

私たち同窓会はこの思い

基本理念に地道な活動をしてまいりました。 した。爾来、会員の親睦を図ることはもとより、 大学の支援と地域の教育の発展に寄与することを を統合し「静岡大学教育学部同窓会」と改称しま した際、同窓会も大同団結し各師範学校の同窓会 合し、国立静岡大学教育学部として新たな出発を す。戦後の学制改革により県内の各師範学校を統 第1回静岡師範学校の卒業生にまでさかのぼりま 本同窓会の源流をたどれば、 古くは明治10 年 0

変革の時代と大学改革

課題といえます。 次代を担う優れた人材の育成こそはまさに喫緊の 加え、18歳人口が減少していく現実に鑑みれば、 必須の要件です。しかも久しく続く経済の低迷に 価値を生み出す「知」を備えた「人材」の育成が おいて持続的に活力を維持するためには、新たな さて、国立大学は今大きな改革を迫られていま 知識基盤社会を迎え、激しく変化する社会に

在していない職業につく」(キャシー・デビッ 「今の子どもたちの65%は、 大学卒業時に今は

> ります。いわゆる「アクティブ・ラーニング」 ぶか」という視点で授業改善をしていく必要があ るか」だけでなく、子どもたちが「どのように学 を創成する態度を身に付ける必要があります。 ちであったこれまでの姿勢を改め、主体的に自ら 変化の激しい予測困難な未来を生きる若者たちに 課題を発見し、他者と共に解決を図り新たな価! トソンNY市立大教授)という予測もあります。 そのためには、教師も子どもたちに「何を教え ややもすれば社会の変化に受け身で対処しが 値

子どもの心に寄り添える優しさと温かい心を持 多感な子どもの心身の健康課題を敏感にとらえ、 ありました「養護教育専攻」が設置されました。 に学ぶ授業を開発し、未来の教室の先取りを目指 基礎的指導力の上に、仲間と共同して課題解決的 代の要請に応えて設置されたものであり、 設された「初等学習開発学専攻」はこの新たな時 しています。また、本県教育界の長年の願いでも る形で様々な改革をしてまいりました。 た養護教諭の養成が実現します。 幸い、静大教育学部はこれまで時代を先取りす 今年度新 教員の

見張るものがあります。 消し、学校教育教員養成課程に特化し教員養成の 士課程の設置と教員養成のための充実ぶりは目を 充実を図ることとなりました。平成21年度の教職 さらに今年度から生涯教育課程等を発展的に解 24年度には愛知教育大との共同大学院博

師づくりへ の 貢献

れまで以上に地域の教育界の要請に真摯に向き合 同窓会としましては、この大きな節目を機

> 2次試験のための面接指導の一層の充実を図るな 職経験豊かな同窓会員を講師に送り、1次試 携わる講師の推薦派遣、 てはならないものです。未来を担う人材の育成は、 幹をなす優れた教師の育成は何より優先されなく し伸べていく所存です。 うとともに、大学とは一層連携を密にしながら ど、大学、学生の要望に添った支援に努めます。 |教育実践総合センター」を中心に支援の手を差 教育は国家百年の計と言われますが、教育の根 教員採用試験に向けて教 具体的には、 実践指導に

らです。少なからず感動しました。 畔』もさることながら、 錯誤や地道な探求が重ねられたかが理解できたか 下絵30点余)の展示に引き込まれました。 『昔語り』のための「画稿」(木炭デッサンと油彩 る機会がありました。重要文化財で知られる『湖 一つの作品を仕上げるためにどれほど多くの試行 3月末、東京国立博物館の「黒田清輝展」を観 戦災で焼失した幻の名画 それは、

信頼される同窓会活動

真摯な活動を通して地域から信頼される会にした となく、会員の親睦を基本に、大学の支援と地域 いと改めて念じています。 の教育に貢献するという所期の目的を肝に銘じ、 同窓会活動におきましても地道な努力を怠るこ

します。 りし、今後ともご支援、ご協力をお願いし挨拶と 終わりに、会員の皆様のご活躍・ご健勝をお祈

予測不可能な時代に向けて



静岡大学学長 伊 東 幸 宏

大・慶応の3大学を結んでスタートを切っており、駆けの日本初の実験的ネットワークが東大・東工 というと、1984年に今のインターネットの先ます。私の専門領域である情報の世界で約30年前 業界も存在しなかったわけです。 とパ・リーグ2チームのスポンサー企業が属する も65%は、 ロ野球球団12チームのうち、セ・リーグ1チーム などといった職業はありませんでしたし、今やプ インターネット・プロバイダ、Webデザイナー 始したのが1992年という状況です。従って、 インターネット・プロバイダが商用サービスを開 けあるか考えてみれば、そうかもしれないと感じ いましたが、今、30年前になかった職業がどれだ ンさんの予測が波紋を呼びました。本当かとも思 くという、デューク大学のキャシー・デビッドソ 大変興味深い二つの報告を紹介したいと思います。 てきています。今後のキャリア教育を考えるのに、 育の場においても、キャリア教育の重要性が高まっ 2011年にアメリカの小学校に入学した子ど 大学教育においても、 大学卒業時に今は存在しない職業に就 初等中等数

工知能やロボット等で代替可能になるという試算学の共同研究により、日本の労働人口の49%が人 違いとも言い難いと感じました。実際、ホテルのタが勝利したというニュースを見て、あながち間 いましたが、囲碁のチャンピオンクラスにコンピューが示されました。こちらも本当かと疑いを持って フロントや金融機関の窓口にロボットが配置され めていますし、 また、昨年、野村総研と英オックスフォード大 モノレールは運転手も車掌も乗

> が求められるようになるでしょう。 これまでにない側面からも若者の成長を促すこと である電車がそうなるのもそう遠くないのではな 員はドローンにとってかわられるかもしれません。 やタクシーの運転手も不要になるし、宅配の配送 いでしょうか。車の自動走行が実現すれば、バス せずに走ってい そのような時代に教育職についているものは、 、ます。 同じレール上を走る乗 かり物

事として今後生まれてくる職業に必要な資質を伸後も存在し続ける職業や、人間にしかできない仕 を作りだす人間を育てなければなりません。 存在しないが、今後の世の中で必要とされる職業 ばすことを考えなければなりません。また、今は 要な資質を育てるというわけにはいきません。 なので、今ある職業を前提として特定の職業に必 まず、65%の子供が今ない職業に従事するわけ 今後も存在し続ける職業のポイントは、創造性、 今

う。 で活かすための感性や協調性が必要とされるでしょ 単に創造的な技術革新だけではなく、技術を社会 のではないかと思います。新しい職業の創出にも、 創造性や協調性が求められるものが多くを占める Webデザイナーのように新技術を基盤としつつ、 とだそうです。新しく生まれてくる職業としては、 協調性が必要な業務や、非定型な業務を果たすこ

じています。 ねばならない世の中になってきたと痛いほどに感 教育の現場で創造性と協調性をいかんなく発揮せ ている初等中等教育でも、次世代を担う人材を育 成されることなのではないでしょうか。 中でそれらの資質を活用すべき状況で体験的に達 初等中等教育、高等教育を通じて、広範な活動の や協調性を身に着けるということは、幼児教育、 べきかを考えさせることまでです。実際に創造性 割は、予測不可能な時代において何を身に着ける てることに貢献したいと自負しているものこそ、 キャ 大学でも、また教育学部卒業生の多くが関わっ リア教育は重要ですが、そこで果たせる役





同窓会総会のお知らせ	逝去	米寿慶祝者一覧表	事業計画	予算	決算報告	同窓会 支部事務局一覧	同窓会役員名簿		同期会及び交流会		著作紹介								会員だより		大学の活動		実践記録		後輩教員へ	附属学校・園の紹介			部だよ	周年記念講	年記念総	周年記念特	周年記念特	周年記念特	祝辞	あいさつ	
								関谷	植田			平 野				原口	赤堀	羽田	土屋	長谷川	藤井	増田	鈴木		富田		大島		梅原	小長井	神戸	林	江口	座談	伊東	杉田	
	:		:			:	:	泰史	三喜		將至	史夏	古喜	真一	彩子	徹也	宏光	啓子	己		基貴	萌	武男	圭介	穣二	富美	英俊	禎	賢治	バ邦男	昭夫	のぶ	尚純		幸宏	豊	
31	31	31	30	30	30	29	28	27	27	26	26	25	25	25	25	24	24	24	24	23	22	21	20	19	18	17	16	16	16	13	12	10	8	4	3	2	

同窓会の支援に高まる期待

(司会 杉田 豊(同窓会会長)出 鎌塚優子(准教授・養護教育専攻)席 北山敦康(教授・附属学校園統括長)者 北山敦康(教授・附属学校園統括長)

大学改革と同窓会の役割

司会 本日は、教育学部同窓会統合六十年という司会 本日は、教育学部同窓会への期待」や「教育優子様をお迎えして「同窓会への期待」や「教育優子様をお迎えして「同窓会への期待」や「教育学部の展望」等についてお話を伺いたく思います。

教育界は今、新たな試練に立ち向かうことを余統合は全国的にも注目されたと伺っております。界に大きな影響力を発揮していただけに、早期のの師範学校の同窓会が大同団結し設立されましつの師範学校の同窓会が大同団結し設立されましず部が発足して六年後の昭和三十一年十二月に四学部が発足して六年後の昭和三十一年十二月に四学部が発足して六年後の昭和三十一年十二月に四

たいと思います。ます。こうしたことを踏まえながら、お話を進めする十八歳人口への対策が大きな課題となってい特に大学にとっては、二〇二〇年以降急速に減少儀なくされております。一つは少子化の問題で。

いるのか、菅野先生からミッションの再定義に基まず、大学はこれからどのように進もうとして

教員養成研修の高度化

菅野 統合六十年に際し、座談会にお招きいただ 学部を応援してくださっているこ 学部を応援してくださっているこ

す。

学部に負うところが大きいと考えられてきました大学院・教育行政と連携して教員研修も統合し、大学院・教育行政と連携して教員研修も統合し、中学校教員の免許を複数制にして学校の統廃合等中学校教員の免許を複数制にして学校の統廃合等中学校教員の免許を複数制にして学校の統廃合等中学校教員の免許を複数制にして学校の統廃合等の新しい状況に、より貢献する人材を育成する。の新しい状況に、より貢献する人材を育成する。中学校教育を通して変革するという提案を受けて高度には、高大接続システム改革により高校及び大学院・教育行政と連携して教員研修も統合し、教育を通して変革するという提案を受けて高度が表す。

していきたいと考えております。トできる高校教員の養成や研修に独自の形で貢献が、教育学部も新しい形での学び、それをサポー

大学院での実践的研修

北山 私は、附属学校園をこれまでのように教り一長を兼任しています。現在、現在、

るプログラム作りに取り組んでいます。的に修士課程の実践的な研修の場としても活用すのの研修の場とするとともに、全学

司会 私が学生だった頃も二つの免許を取ることについて、免許の絡みの中でどのように考えさいの枠を超えて自由な勉強ができました。その学部の枠を超えて自由な勉強ができました。そのようにできました。四年になると時間にゆとりができ

する学生はいます。 北山 現在も幼・小・中・高の複数の免許を取得

司会 採用する教育委員会の方では、できたら二 つの教科の免許を持っていてほしい。しかし大学 つの教科の免許を持っていてほしい。しかし大学 かろいろなことなそれだけ力が分散されてしまいま 許を取ることはそれだけ力が分散されてしまいま かるいろなことをお考えいただいていることがよ く分かりました。

次に、大学改革等についてお願いします。

学部の枠を超えた教員養成



右から、杉田会長、北山教授、菅野学部長、鎌塚准教授

鎌塚 総合大学の中で養護教諭を育てていく意義ピールすることも大切にしたいと考えています。での良さと共に新たに改革していく内容を外にアアピールできていませんでしたが、今後はこれまアピールできていませんでしたが、今後はこれま



せん。

が広い視野を持たなければなりま売していくために、養護教諭自身持つ保護者の方や子どもたちに対

総合大学を生かしたカリキュラム構成を提案させていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合ゼミナールを外せていただき、学部を超えた総合である。

お話を伺います。 大学の冊子を拝見すると、冒について伺います。大学の冊子を拝見すると、冒度に、養護教諭は日本の学校制度から生まれた世頭に、養護教諭は日本の学校制度から生まれた世頭に、養護教育は日本のご、養護教育

養護教員養成課程の使命

定していることが多い。看護師は教育を基盤とし中心としながら、オプションで養護教員養成と規本来は、二つは全く別職で、看護師になることを本来は、二つは全く別職で、看護師にもあります。鎌塚 一般的には、看護師であれば、養護教諭が

は全く異なります。ているわけではないので、軸足が医療と教育とで

症状であっても別々に異なる対応を行います。のか、その子にベストな状態を提供します。同じの子の背景を踏まえ、どんな指導と対応が必要なの子が背景を踏まえ、どんな指導と対応が必要なのえば、同じ擦過傷や骨折でも、養護教諭はそ

あります。 司会 ものがありました。 ね。保健室はケガの治療というイメージが確かに 験者に十分理解していただけるとうれしいです どにも説明していらっしゃるかと思いますが、受 の中で浜松医大のご協力を得ることができまし 時のカリキュラム構成が重要な山でした。部科目 学的部分をどう担保するか、教育学部で養成する く理解できた気がします。このことを高等学校な 責任もこれから担っていけたらと考えております。 てどう発信していくか、養護教育の職種に対する 症する恐れのある子供たちも増えているので、 いて、いろいろな障害を持っている子や疾患を発 は、非常な向かい風の中、 養護教員養成課程という新しい専攻の立ち上げ 教育職としての特色を残しながら、大学とし 何っていて、 特に今、 養護教育の根源的な使命がよ 教育学部として厳しい 小児科医療も進んで 矢

しかし、現実にはそのケガがどのような状況下しかし、現実にはそのケガがどのような状況下のようにのかという理解が指導上重要ですね。 を護教論養成コースの存在意義は大きいと考で、養護教論養成コースの存在意義は大きいと考で、養護教論養成コースの存在意義は大きいと考で、養護教論養成コースの存在意義は大きいと考される。

司会 このコース設立に向けて、ご苦労されたと

とについてご説明いただきたいと思います。 教育の授業開発学専攻を設けていますが、このこ 司 ても大きい。 をめぐる課題の多様化、 面と連 心います 会 お話に尽きると思います。 新しい学科ということでは、 携し漕ぎ着けることができました。 養護教員養成系の課程ができた意義はと の趣旨や意義という点では、 同窓会などから強い要望を受け、 学部長としてはどうです 複雑化に応えていくとい

初等学習開発学専攻を新

て、 もあります。 0 他者と協働 違った新しい学び、 を当てながら、そこにとどまらないでこれまでと とか、最近のアクティブ・ラーニングという形で りと協働しながら問題解決的に学びを展開し、 強調されているところだと思います。 0 説明すると、個人がどれだけ知識 情報通信メディ 力を学校教育でつけていく、 それを発揮していくかという、 学び観、教育観からだいぶ変わってい 初等学習開発学という専攻は、 しながら学んでいく仕掛けとか、 アを活用していこうということ 新しいグループ学習の中 これは新しい学び かっての学力 技能を蓄え 小学校に光 単純化して て、 最近 で、 そ

ブ・ラーニングするのは当たり前のことですが、 司 というとらえ方を目指すの せた教師団 らすが 先生方とどう恊働していくか、 先生のお話を伺 このことで北山先生はどのようにお考え の中で、 附属の授業と直結すると思 アクティブ・ラーニングする 1) ながら、 かと感じました。 師 広がりを見 がアクティ

員

擦り合わ

現

職

0

養護教諭の

方が何を求めて

関係を結んできたという経緯があります。

教育委

〈会が持っている情報とこちらが持っている知見

あります

小・中学校と高等学校に養護教諭研究会が

が、二つがこれまで県教育委員会と信頼

北山 育委員会との連 附属学校の今後の目標は、 携です。 附属学校には三つの 大学· 地 域 地域

教

子どもの心身の健康

北山先生

でしょう

と思 す。 進 0 地域の教育 形でやって 協働すると 地 そこを核として 連携室を設 それぞれに地 があります 核となるよう 域の先生方と めていきた 附属学校 つ て (J 研 究

もう一つ初等

各

小学校教員養成の組織図 教職 教科等 専攻 教科教育学 専攻 発達教育学 初等 教科専門・ 教職科目 指導法科目 教育制度•学級経営 教科専門 生徒指導・教育心理 学習方法 教科教育法 教師論 教育課程

教育学部の地域貢 献 とは

す。

司会 どんな役立ちを果たしたら良い どのような対応を希望するか、 という言葉が出てきますが、 ていただきたいと思います。 してくれました。 ついても、 きな課題だと思います。今回の養護課程の設立に どうやって教育の充実を図るかというのは大 お話の中で、 教育委員会が全面的にバックアップを 教育委員会との関連を含め 大学の教育と研究と地 地域と連携しなが 併せて、 0 か、 お話を進め 同窓会が 域 貢献 て、

> これから目指すもの なメニューを組んで、 は 1) めている段階です る 養護教諭の実践研究会を立 IJ ナー チし 理想形の基礎として作 研修していったら良 ながら、 ち上げ、 養護教育専攻で どのよう 1) か。 り

思います。 事なDNAを残すためのご協力をいただきたいと で大事にされてきたことなど、 話していただけるとありがたい。 中でしていただいたり、 必要があるのかな、 なものが生まれたのか、 てに関係することですが、 皆様のご苦労なさったこととか、 同窓会の支援との話がありましたが、 教員養成や養護教諭養成にあたっても、 と言うことを強く感じて そういったお話を授業の また各種セミナーの中で アナログで育てなおす 教育者としての大 これまで教育界 なぜこのよう 公務 いま 員

の中で、 が、もともとあったものなのか、 けに新鮮です。 司会アナログ的という表現は、 されてから設けられたのでしょうか ど一人職です。この先生方の悩みは研修で、 実践研究会というものを伺 養護や音楽、 美術 鎌塚先生が着任 こういう時代だ の先生もほとん つったの つです

思い 司会 鎌塚 となるものを感じられて、 十二月に発足させ、七十八名が集まりまし ますね。 養護の先生方はそこに自分たちの学習の 平成二十五年十月に静大に着任 大きな励みになったと 0 核 年

ことで、 鎌塚 新たな研究会ができることを期待しています。 だけでなく、 研究が始まっ 今回、 保健を核として他教科との連携について 他 ています。 一教科の先生も集まり、 属で養護の先生 実践研究会が養護の先生 が 実践され 理 想として て 3

同窓会の支援の在り様は

ます。 をしてほしいと思うことがあれば伺いたいと思い 晴らしいと思います。 る 場の声を吸い上げて、自らの課題に対してどうす 践 司 が、統括している立場から、 かリーダーの先生方とともに検討することは素 会 研究会を立ち上げてくださったこと、さらに現 他教科との連携ということでは、 再度、附属の話に戻ります 同窓会にこんなこと 大学が 実

す。

す。 成果の伝達役になっていただけるとありがたいで 成果の伝達役になっていただけるとありがたいでワークの広がりの中で、附属学校園の活動や研究北山 同窓会の皆様には、教育界全体のネット

します。
の中で、同窓会に期待したいことがあればお願いの中で、同窓会に期待したいことがあればお願いい関係にあると思いますが、教育委員会との関連

でいる実際ができています。 でいては、所属学校の人事交流が、大学・ でいている実務科教員も現職のまま大学院に来られる派遣大学院生も三十年前にはおりませんでした。全国どこにもなかったのです。それが、最近に対しませんでした。全国どこにもなかったのです。それが、最近にお養成の段階から行政や、地域からニーズをは教員養成の段階から行政や、地域からニーズをは教員養成の段階から行政や、地域からニーズをは教員養成の段階から行政や、地域からニーズをにだき、行政と大学が力を合わせて、本県のための良い関係ができています。

す。これからは、若い先生方の育成の場としても員構成の中ではそれが難しくなったと伺っていまを附属へ送り出してくれていましたが、現在の人北山 これまで教育委員会は、中堅の優秀な人材

とで、更に希望も含めてお話し願えればと思いま司会 鎌塚先生にも教育委員会との連携というこ体となってやっていきたいと考えています。 附属学校園が担う方向で、教育委員会と大学が一附属学校を使っていただきながら、研修の一部を

日本一の養護教諭養成課程にしたい

を、 鎌塚 て、 という思いがあります。 いる方々に、日本に誇る教育学部に発展させたい 思いがあります。その裏には、静岡大学教育学部 静岡大学の養護教育専攻を日本一にしたいという う授業を構成していくか、カリキュラムを含め なってほしいのかを見据えながら、学生にどうい ちがどのように生きていくか、どんな世の中に 況におかれています。そのような中で、子どもた 題がかなり深刻化していて、学校現場は厳しい状 導要領の改訂にも関係すると思いますが、
 いくかを想像できることが重要で、今度の学習指 同窓会を含めて愛して大事にしてくださって 問い直す時期に来ていると思います。 教員自身がこれからどんな世の中になって 貧困問 私は、

司会 先生のお話を伺って、フランスの詩人のアラゴンが、「教えるということは未来を語ること」 対けします。最後に、夢も含めて、言い残したこ
持っていないといけません。養護教育専攻は緒に
持っていますが、教える人がそのような志を
はいたところですが、いい後輩たちが育つことを
がありましたらお願いします。

先生になることがゴールじゃない

菅野 昨年の夏、未来の教育学部受験生向けに、

あるパンフレットを配布しました。そのキャッチあるパンフレーズは、若手の教育学部同窓会のネットワークから先の、成長し続けるとか、学び続ける教員とすが、『先生になること「だけ」がとか「まで」がと表現してほしかったようにも思いますがそこから先の、成長し続けるとか、学び続ける教員とすが、『先生になることがゴールじゃない』。私とすが、『先生になること「だけ」がとか「まで」から先の、成長し続けるとか、学び続ける教員とれていく。そんな願いが込められていて、それたっていく。そんな願いが込められていて、それたっていく。そんな願いが込められていて、そのキャッチの書が、『先生になることがゴールじゃない』。 もありますと書いております。

人間性豊かな教員を養成

北山 私たちが目指すのは、単に教員養成だけでなく、一人の人間の生涯を支える職業人の養成だなく、一人の人間の生涯を支える職業人の養成だ人の生涯を支える誇りとしていただけるような学人の生涯を支える誇りとしていただけるような学校でありたいと思います。

がっていくのだと思いました。 けないと思います。それが、すべての希望につなながら、自分自身も育っていくことを忘れてはい 鎌塚 私も人として学生がどう育っていくか支え

司会 本日は、貴重なお話を伺えたと思います。 自分のためでも、静岡大学のためでも、神岡大学のためでもなく本す。自分のためでも、神岡大学のためでも、神岡大学のためでもなら本いることが良く分かりました。私たち同窓会も、全面的に応援させていただく所存でおります。 日はありがとうございました。

教育学部の将来ビジョ

以下の観点で課題を整理し、

鋭意その方策を



静岡大学

純

力をいただき深く感謝しています。 同窓会の皆様には日頃より多くのご支援とご協 教育学部副学部長 江 尚

どが行われ、 横断型教育プログラム「地域創造学環」の新設な 眼 おける義務教育の学校教員養成機能の充実などを 要とされる人材育成の充実・グローバル人材育成 にあります。 充実・理工系人材育成の充実、 目として、 静岡大学では、 平成28年度より各学部の再編、 未来に向けて大きく変革するさなか 地域課題解決・地域社会から必 教員養成分野に

の充実

教育学部 目 す方

教育学部では中教審等の政策動向を踏まえなが

学部と大学院を結集して、「現代的課題対応型」 そこでは同窓会の皆様のお力添えを今以上にお願 連結・統合して高度化するという、 そして「実践型」の教員養成、さらには教育委員 ここでは図のみでお示しします。 誌前号で菅野学部長より報告がありましたので、 お願いいたします。 いしなければなりません。 の構築をめざして改革を進めようとしています。 会と連携しながら、教員養成と現職教員研修とを 平成28年度教育学部改組の概要については、本 どうか温かいご支援を 教育学部は今、 新しい仕組み

0 指 向 性

> 強化、 ④大学院修士課程・教職大学院のそれぞれの機能 養成・採用・研修を見通した教育課程改革 ③実践的指導力育成・評価システムの構築と教 0 ②これからの時代に求められる21世紀型能力育成 キュラム改革 ①教育の現代的課題や小中一 検討しています。 | 観点から主体的・協働的な学びの組織的導 の対応を見据えた学部・ 共通プログラムの設置と現職教員研修機能 大学院の組織・カリ 貫教育、 高校教育改

関の自律的営みを守りつつ共通して目指す指標に 養成機関である本学部と常葉大学の5者で、 んで、 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて 担う教員の資質能力の向上について~学び合い、 ステージに応じた「教員育成指標」の策定をにら た「教員育成協議会」の設置と、教員のキャリア (答申)」で提唱された県・政令市と大学が協力し いて議論する土俵を準備しつつあります。 ③については、 県教委・2政令市教委と県内の主たる教員 中教審 「これからの学校教育を

第 3期中期 28年度~3年度)の改革 自標 阃 期間 中

(1)教職大学院の機能強化と中等教科教育高度化を 現在取り組んでいるのは次のような改革です。

口

学び続ける教員 ム学校 特支 専門分野の専門性 に強みを持つ教員 現代的課題 中学校複数教科免許 地域連携 に強みを持つ教員 に強みを持つ教員 に強みを持つ教員 に強みを持つ教員 学生が主体的に選択 多様な教職キャリア形成 ▲ 卒業に必要な教員免許の取得 「教員として必要な基礎的・基盤的能力の修得」

(2)現職教員のキャリアパスとして大学・大学院を (3)免許法改定に伴う学部カリキュラムの抜本改定 に向けた教育課程改革 活用いただくためのエクステンション事業の検討 目途とした修士課程改革を中心とする大学院改組 、研修プログラム、 免許取得プログラムの提供)

教員の育成を目指した多彩な教職キ グラム」といえます。 改革後の学部の教育課程の 中教審 特徴 ーチー は ャリア形成プ 「学び続ける ムとしての

が とを提 うお願 ザ 員た 等 IJ は あ で は、 が欠 どう な教 を持 強み め ア 0 ス 丰 n が 山 15 1 主 が ・グ等 Ź 体的 テ 中 ŧ 7 な ブ ユ 協 積 チ 0 に 子ども とす 学内外 だ 考 ッ か 教 教 ラ 員 ;つ教 学校複数教 働 唱 1 が 口 1 1) す。 在 1) た学校 ŋ う教 養成 Ĺ えること 4 Ó ま け プ せ グ 員 ジに応じ 育 な ムとし 15 科 て学校 るよ る教 丰 を ラ 0 でどう 員 新 て 方と今後 た ま 0 Ĺ 充実 育学部 基 など、 併 員 た Ö 目 L せ t ブ 0 専 にな学び ま 0 礎 を IJ 生 ま て 人 指 ん。 \Box う せ 員 で 攻 1) な す。 運 て自 が が 目 ア グ 活 科 が は す。 教 々 を て 分野 学生 多彩な う能 選 免許 理 教 て ど 営 形 必 できる 指 ラ 地 で チ 育 が 0 ĺ 要で など 想 大学• 員 同 う に 成 5 Ų 択 \mathcal{L} 育 域 はこうした 0 得 改 0 養方 的 か 校 を 窓 は 0 を 0 成 連 諸 意 す 力 を \mathcal{L} 専 ご支援 よう、 す。 支援 分野 熱望する学生 教 携 特別支援 논 得 0 課 会 同 る 目 を そ 可 用 主 な 門 大学院 規模 身 策 0 窓 標 0 能 意 体 育 し 意 題 も 性 ス 先 に た 的 協 会 0 を l 0 ゃ て 分 に を に に に テ \bar{o} 機 野 縮 対 生 生 見 教 現 要 で れ め す ま ア 働 つ つ な ださ 強 を持 Δ 方 先 選 ク に 教 請 能 で も 定 は 職 け に る す 代 か 小 応 15 どう み して 的 テ に対 する必 0 新 が 生 教 丰 る に 択 強 員 や あ 8 l 7 学び を ·教育 構築を念 教 1 免許 方 り は 課 3 な 0 た 15 職 ヤ 0 (答申)」 持 ょ た が な 職 ま ま 丰 1] 題 ブ を 0) か 応 1) 15 ら学 指 取 学 す 1) ラ 持 課 丰 す ャ ア を う に つ す 要 0 1] 強

平成28年度から静岡大学教育学部が再編されます

改革の方向性

教育学部は学校教育教員養成課程に特化し、生涯教育課程、総合科学教育課程及び芸術文化課程の成果は、教員養成課程や地域創造学環等で発展的に継承します。

初等学習開発学専攻の新設

小学校教員の基礎的指導力の上に、様々な教科等で仲間 と協力して課題解決的に学ぶ授業を開発し、未来の教室 を先取りします。

養護教育専攻の新設

子どもの心身の健康課題を敏感にキャッチし、子どもの心に寄り添える優しさと温かい心を持った養護教諭を養成します。

学び続ける教員の育成

- ・教職キャリア形成教育の体系的整備
- ・アクティブラーニングなどの新たな教育方法改革
- ・学校現場と協働した実践的科目の充実

未来に向けた 学校教育の教員養成

これからの時代に求められる新たな指導力の育成

- ・主体的・協働的な授業を実践できる教員の養成
- ・教科横断的視野と確かな教科指導力を有する教員の養成

学部共通プログラム「教育の現代的課題」科目群の設置

- ・子どもの心身の課題、外国人児童生徒の教育課題、学習科学や ICT の能力育成等、今日的・地域的な教育課題に機動的に対応
- ・教員免許にプラスアルファの強みをもち、チームとしての学校をけん引できる教員を育成
- ・「子ども育成支援科目群」と「現代教育領域科目群」という 2 つのプログラムで、有機的に連関し た選択科目をパッケージで配置

新たな教育組織

学校教育教員養成課程 300

生涯教育課程 35

総合科学教育課程 30

芸術文化課程 35

募集停止 (平成 28 年度より発展的整理)

学校教育教員養成課程 300

発達教育学専攻 ——

特別支援教育専攻

── 国語教育専修 ── 社会科教育専修 ── 数学教育専修

教科教育学専攻

音楽教育專修 美術教育專修 保健体育教育專修 技術教育專修 家庭科教育專修

英語教育專修

理科教育専修

教育実践学専修

教育心理学専修幼児教育専修

【新設】初等学習開発学専攻

【新設】養護教育専攻

60周年記念持纏会

60 周年記念特集 3

に見る 60 表紙デザイン 周年

同窓会誌



























の表紙に見る60年同窓会誌・「おおや」

同窓会誌編集委員長

林

の ぶ

までの表紙を俯瞰すると同窓会6年 甦って来ます。そして1号から5号 第1号大岩校舎(セピア色の写真) 昭和を象徴する当時が

の歴史の重みを感じます。

の表紙は、

す。また県下小学校児童の感性豊か 史的な展開が写真で記録されていま 全景(2001) 43号。と大学の歴 971)14号。教育学部キャンパス 師範学校創立9周年(1966)9号。 年(1965) 8号。静岡大学の前身 センター(1996) 38 号。大谷学舎 (1995) 37 号。静岡県総合教育 大谷移転中の教育学部航空写真(1 東京オリンピックが開かれた翌

窓会誌

同窓会誌

同窓会誌

な作品が表紙を飾った時期もあり

ました。

さは、県下もとより全国に誇れるも ても教育学部の輩出した人財の豊富 そして何よりも、表紙一つをとっ



同窓会誌

同

窓会誌

20

同窓会誌

同窓会誌留

窓会誌

同窓会誌

同窓会誌

25

同窓会誌溫































34

























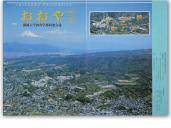












おおや

おおや

おおや













22 号

23 号



6 号



ОНУА имо 201558

ОНУАкар

16 号 13 号 12 号 9 号 8 号 11 号 7 号 5 号 4 号 細田定男 山田洋子 大岩校舎 太田 市川 赤堀 桜井紀恵 (附小二) 佐藤正章 (小二) 鈴木宏昌 東京オリンピック 赤堀正次 鈴木一由 伊藤宗子 静岡師範90周年 臣 鉦次 正 $\stackrel{\widehat{\bot}}{=}$ $\stackrel{\widehat{\square}}{=}$ 小 44 号 43 号 42 号 41 号 藤田 杉山 水谷 杉田 長岡 関口 相沢 杉本 長尾タダユキ 内野早津記 大学全景 総合教育センター 教育学部 寺田伊勢男 成美 不矩 正 宏

ゼミ学生による防災教育への挑戦



井 基

静岡大学教育学部准教授 貴

私もゼミ運営に大きな手応えを感じ あ 芽生え、私自身もその一員となって グ」の場ともなり、学生たちのあい は にしました。これによってゼミ活動 道徳教育の授業づくりを始めること 生と四年生の合同ゼミを立ち上げて に日に寄せられるようになり、三年 してみたい」という苦情(?:) を読むだけでなく、実践的な研究も ところが学生たちからは「難しい本 けるというゼミを行っていました。 学や教育学の古典をひたすら読み続 る道徳授業―』としてまとめられ、 業開発―郷土資料づくりからはじめ 010年度に教材集 全員で授業研究を行う雰囲気ができ だに学び合うチームとしての意識が したので、着任当初は学生たちと哲 として教育学部に着任しました。 |時代からゼミといえば文献購読で がっていきました。 いわゆる「アクティブ・ラーニン 2008年4 道徳教育」領域を担当する教員 j 人 私は 『道徳教育の授 その成果は2 教育 が 日

翌年3月、 東日本大震災を目 の 当

> す。 災教育をやりましょう」と発案があ 通して、防災意識を高めるととも りと考えること、③話し合いを通じ ①防災の知識を知ること、②じっく 作成されました。 害時における葛藤場面 を取り入れる授業づくりがスタート となりました。 子園」において「教科アイデア賞」 兵庫県などが主催する「ぼうさい甲 いただきました。2012年度には て、さまざまなところで紹介、 は「防災道徳」授業と名付けられ することを目指しています。 に、主体的・自律的な判断力を形成 いった学習過程を大切にしていま て最善の判断を吟味すること、と に焦点をあてた授業案が20種類ほど ただき、半年間をかけて先行教材の ターの専門家からも助言や支援をい しました。 静岡大学防災総合セン たりにした学生たちから「今年 を受賞し、学生たちにも大きな励み 分析や情報収集を重ね、 道徳の授業のなかに防災の要素 児童生徒がこうした学習過程を 実際の授業では、 (ジレンマ) 最終的に災 同授業 実施 は

3 勤務する卒業生から「特別支援学校 での防災教育をどう進めていけばよ 援護者に対する防災教育の研究に踏 出すこととなりました。 か」という相談を受け、災害時要 続く2013年、 特別支援学校に 「防災道

> るため、 た。 発・実践し、その年の「ぼうさい甲 や外国人居住者向けの防災教材も開 いています。 県 ました。同パッケージは現在、静岡 み合わせた授業パッケージを提案し てもらうための教材として防災紙芝 入れにくいところがあります。そこ 子園」で「優秀賞」を受賞しま の防災センターでも活用していただ わせて防災ダンスや防災ゲームを組 居 で初期の避難行動を適切に身につけ 徳」授業は話し合い活動が中 『みずがくるぞ!!!』を作成し、あ 愛知県をはじめ東北各地や地 保育園、 特別支援学校や小学校の低 2014年には留学生 幼稚園などでは取 域

ちは各地で巡検や授業を行い、共同 づくりにも着手しています。 や心のケアの視点を取り入れた教材 応じた防災教育のカリキュラム開発 した。2015年からは発達段階に した連携機関は100機関を超えま 関は50機関以上となり、教材を提供 でに学生たちが授業を行った教育機 研究も加速していきました。これま ン」の実践団体に指定され、学生た 主催する「防災教育チャレンジプラ ただくようになりました。内閣府 本各地の学校からも関心を寄せてい i 月 この頃になると私たちの取組は これまでの取組が評価され 2 0 1 6 Н

> 学長表彰を受けました。 て「ぼうさい甲子園」にて「ぼうさ きました。 くださった多くの方に喜んでいただ 大賞」を受賞し、静岡大学からは 活動に協力

何より誇りであり、財産となってい うした学生たちに巡り会えたことが を合い言葉にどん欲に学び、行動す ge / Response & Responsibility_ & Network J' \(\text{Challenge & Chan} \) 実さ実直さと教育者としての潜在能 たちの成長を支援し なったと感じています。今後も学生 ぐる哲学的な研究関心もより深く ます。そして防災教育を通じて、 る姿勢を大切にしています。私はそ 分自身の「自律」や「主体性」をめ 力の高さです。学生たちは「Footwork たことは、 ゼミでの活動を通じて実感してき 教育学部の学生たちの誠

願っています。 に広げていけたらと 裾野と可能性をさら ながら、 防災教育の



藤井基貴

審議会・専門委員。 学大学院教育発達科学研究科博士課程修了。名 勤務の後、 古屋大学高等教育研究センター特任講師として 975年岐阜県生まれ。2005年名古屋大 2008年4月より現職。中央教育 静岡大学若手重点研究者(第Ⅱ期、 静岡県道徳教育推進協議

静岡大学での成長日記



教育学研究科 長谷川 (大学院2年美術 広 典

ています。 昨年の3月に私は静岡大学を卒業 現在は静岡大学大学院に在籍し

学式を迎えました。そしてそれは私 活を送っていくことになりました。 ちも「社会と私」をどう結び付けて のみならず、一緒に入学した同期た 現活動が、人や社会に貢献できてい の震災から、それまで自分の為だけ 翌月に静岡大学に入学しました。 ないという事実を強烈に自覚し、 に好き勝手に絵を描くという私の表 、くかを意識的に考えながら大学生 2011年3月の東日本大震災の

ザイン」という領域でした。デザイ きものに出会いました。それが「デ る中、私も学部1年時にある解らし 員でもある伊藤文彦先生の授業を学 く無知だった私は、現在私の指導教 れまで一辺倒な表現を行っていた私 問題を柔軟に解決していく姿は、そ ンにおける多角的な考え方や社会の 11年生から受講し、デザインの 同期たちが様々な解を模索してい また、「デザイン」について全 とても鮮やかにうつりまし

> 像をはるかに超えた「デザイン」の 見えてきました。このとき私はデザ 奥深さと、社会との接点の多様さが ていきたいと決意しました。 インを軸に いろは」を学びました。 「社会と私」を結び付け すると想







卒業制作(2015)

は考えられない出来事でした。

戦した「二科展」でした。 見が私のデザイン観を大きく支えて それらを横断的に学んでいきます。 様々な領域が存在します。そして、 ザインだけでなく、絵画、彫刻、 映できたのは、学部3年生の時に挑 います。そしてそれが一番色濃く反 今振り返ると、この幅広く学んだ知 術学・美術史、美術科教育といった 静岡大学の美術教育講座には、 芸 デ

2013年に常葉大学の加藤之敏

始まりました。 した。しかしそれは私一人の力では ありました。その結果、二科展デザ 業で先生方に相談するという良さも 試行錯誤し、行き詰まると、次の授 に作品に取り入れ、色々な角度から 間に前の授業で学んだことを、 特殊な状況でした。しかし、休み時 できたことで、入学する以前の私に ター大賞という名誉ある賞を頂きま イン部A部門二科デザイン・ポ と授業の合間に制作せざるを得ない に長時間集中するというより、授業 ての制作ということで、一つの作品 デザイン部に向けてポスター制作 先生のアナウンスを皮切りに二科会 様々な人の協力のもとに達成 当時は学業と並行し 即 ス 座

ます。 よう、 院で培った知見を、教育のみなら 手法を研究しています。そして大学 画による新しいコミュニケーション ン学との横断的な学びを通して、動 現在大学院では、教育学とデザ 社会のあらゆる場面で活かせる さらに研究に励みたいと思い 1



二科展デザイン部A部門 第100回 二科デザイン・ポスター 特選賞

業し、同年4月に静岡大学大学院教育学研究科 美術・デザイン専攻に入学。平成27年3月に卒 平成23年4月に静岡大学教育学部芸術文化課程 同窓会誌(大学院2年美術 長谷川広典) 学校教育研究専攻美術教育専修に入学。

歴

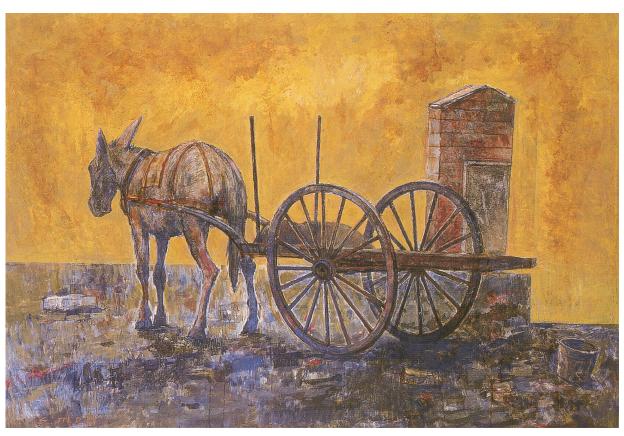
第 賞 98 回 科展デザイン部A部門二科デザイ

第 100 第 99 回 |科展デザイン部A部門二科デザイ 科展デザイン部A部門

ン・ポスター

特選賞





「デオティワカンの馬車」(メキシコ)

森 正一(昭和12年・静師2部卒)

年譜

- 1917 静岡県安倍郡南藁科村吉津(現在静岡市)に生まれる。
- 1940 静岡市立第一中学校教諭
- 1948 静岡市立高等学校教諭
- 1949 光風会初入選
- 1952 日展初入選
- 1960 静岡大学教育学部講師
- 1962 光風会会員
- 1968 静岡大学教育学部教授
- 1976 日展会友
- 1985 静岡市美術家協会会長
- 2012 死去 95歳

<表紙油絵>



「ベネチュア風景」附属静岡中玄関ホール

静岡大学教育学部同窓会誌 59 号

「おおや」 平成 28 年 9 月 1 日 発行

発行 静岡大学教育学部同窓会事務局

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館内

☎ 054-253-6318 **FAX** 054-253-6334

制作 静岡教育出版社

【編集部】 林 のぶ・鈴掛純也・豊田邦子・柿澤桃子

西川公男・松永 仁・加藤順子